# 国語科

教科領域研究テーマ
【文学作品における学習課題を
協同的に追究し読み深める力の育成】



国語科

# 文学作品における学習課題を協同的に追究し読み深める力の育成

実　践　者　細川　美保，大上　航太，丸山　佑樹
愛媛大学研究パートナー　三浦　和尚　小助川元太

## 第１章　はじめに

持続可能な社会を支える資質・能力を育成するためには，自分の経験・価値観・感性などを基に言葉を用いて表現する力（自立の力）と，多様な価値観を認め，互いの個性を尊重したり他者と協調しながら進んで行動したりする力（共生の力）を仲間との関わり合いの中で自らの自尊感情を高めながら育てていくことが必要である。

文学作品を読むことは，自分，それを取り巻く人，ものとのよりよい関係を築くための基盤になるとともに，読みを深める中で言葉を吟味し，読み手自身の経験や価値観と比べ，読み手それぞれの多様な考えを表出していくことにつながる。さらに，ものごとを批判的に考えたり多面的に捉えたりする力を育てるためにも必要不可欠なものである。

したがって，文学作品における学習課題を解決するために他者と協力しながら追究し読み深める力を育成することが，上に挙げた自立と共生の力を育てることにつながると考え，本研究主題を設定した。

## 第２章　研究の実際

**研究（その１）**

### ことばのイメージを丁寧に捉え，読みを深めて，自分の考えを筋道立てて説明する力の育成

（実践者）細川　美保

**１　研究テーマ設定の理由**

現在，様々な場でコミュニケーション能力の育成が求められている。持続可能な社会を支える資質・能力として，他者に自分の考えを伝える力，多くの情報から必要な情報を取り出し，筋道を立てて考え，表現する力は必須である。

そこで，言葉そのものを理解すること，言葉のイメージから文章全体はどのような内容を述べているかを理解すること，それらに自らがどのような考えをもっているかを筋道を立てて表現することが必要であると考えた。また，同じ事実を基にしていても，その人の考えや体験，価値観によって，理由づけの内容に違いが表れる。その違いを知ることが，人を知ることにもつながり，共生につながる。それが持続可能な社会を支える資質・能力につながるのではないかと考え，本研究テーマを設定した。

**２　研究の内容及び方法**

**(1)　生徒の実態把握**

**(2)　協同の学び合いの場の充実**

ペアやグループで課題を解決する際，グループ内の特定の生徒の意見に依存してしまいがちである。そこで，付箋やホワイトボード等を活用して様々な意見を目に見える形に表し，自分の考

えが広がったり，同じ考えを聞いて自分の根拠が一層明確になり自信がもてるようになったりするなど，生徒の考えの変化が期待できるような授業展開とする。また自分や他者の思考を後で振り返ることができるように，ワークシートを工夫する。

**(3) 比べ読みを取り入れた授業の工夫**

同じ題材，もしくは同じ作者の作品を読み比べる時，そこに生徒は共通点や相違点を見つけようとする。作者の主張や表現方法などについて考える過程で，自然と言葉や文章を精読するようになる。そこに作品の新たな発見もあると考える。多様な読みの視点をもつことで，様々な価値観について考えたり，仲間を理解することにもつなげたりできるような授業展開を取り入れる。

## 3 研究の実際

**(1) 生徒の実態把握**

担当学級の生徒（40名）は，明るく積極的に授業に臨むことができる。また，仲間の多様な意見に対しても共感的な態度で受け入れることができる生徒が多い。そのため，多くの生徒は積極的に友だちの意見に耳を傾け，助言をし合ったり，友だちの助言を自分の課題に生かそうとしたりできる。しかし，学級の約４割の生徒は，友だちの意見そのものは理解してはいるが，その意見と本文とのつながりに基づいて，自分の意見を述べるには至っていない。また，約２割の生徒は，友達の意見に対して，自分の意見を述べる自信がないか，もしくは友達の意見が理解できていないため，共感するだけにとどまってていた。さらに，数名ではあるが，友達の意見に対して否定的で，自分の意見以外は受け付けない生徒もいた。以上のことから，作者が伝えたいことを理解するための方法，そして，自分が伝えたいことを適切に表現する方法，協同の学びのよさを知ることが重要であると考えた。

**(2) 論理的に思考し表現する力を高めるための工夫**

国語では言葉という事実をもとに，読みを深めたり，それを読む各自が自分の経験を基に理由づけし，解釈したりして主張につなげていく。また，言葉そのものがもつ力やそのつながりによる表現の豊かさに触れ，自分の解釈をし，その解釈について友達と交流することで自分の考えを広げることができる。言葉や文章の意味を解釈したり，自分が解釈したことを友達に伝えたりする際には，作品に書かれている言葉や文章を根拠にして筋道立てて考え，分かりやすく表現することが大切になってくる。そのため，以下三つのことに留意して論理的に思考し表現する力を養っていきたいと考えた。

一つ目は，言葉を大切にするということである。学習者の思考の基本は言葉，という事実である。それをどう理由づけするかによって読みは違ってくる。言葉という事実を大切にしていくことを基本において学習をすすめた。

二つ目は比べ読みを取り入れることである。様々な文章を知り，そこに表れる共通点と相違点を考える学習活動を行うことで，生徒は言葉を注意深く捉え，論理的に文章を分析しようとするであろうと考えた。

三つ目は，協同の学びを発揮する場を設定することである。自分の解釈や考えを説明する際，論理的に表現できているかどうかを友達同士で話し合ったり，よりよくするための助言をしたりする活動を取り入れた。

**(3) 授業の実際**

**ア 指導の実際**

**(ア) 単 元 名**

詩の魅力を伝える解説文を書こう

### (イ) 単元目標

詩の言葉や，言葉同士のつながりに着目し，自分の経験や他者の考えを踏まえながら想像したり，考えたりすることを通して，読みを深め，詩の魅力を伝える文章を書くことができる。

〔本質的な問い〕

詩を読むとはどういうことか。

〔永続的な理解〕

詩を読むということは，吟味し，精選された言葉と出会い，その力に触れることで豊かな表現を知り，詩人のものの見方を捉え，自分の考えを広げることができるということである。そして，その詩を解釈するということは，そこに書かれている「言葉」を「事実」として，それを読む各自が自分の経験をもとに「理由づけ」し，それぞれの「鑑賞」につなげていくことである。

### (ウ) 評価目標と評価方法

| 評価目標 | 評価方法 |
|---|---|
| ①詩の形式に関心をもち，主体的に作者の思いを理解しようとしたり，そこから考えた詩の魅力を表現しようとしたりする。（関心・意欲・態度） | ◎パフォーマンス課題<br>あなたは有名な文芸評論家です。牟礼慶子作「見えない季節」という詩の解説文を中学生向けの雑誌に載せる仕事を依頼されました。この詩に表れている魅力を読者に伝えるための解説文を書いてください。（①②③）<br>○観察（①）<br>○ワークシートやアドバイスの記述分析（②③） |
| ②詩に表れているものの見方や考え方を自分の経験に基づいて捉え，自分のものの見方や考え方を広げている。（読むこと） | |
| ③語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し，語感を磨くとともに，詩の中の語彙に関心をもつことができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項） | |

### (エ) ルーブリック

| | |
|---|---|
| ①詩の魅力として適当なものが挙げられている。<br>②魅力と，それを解説するために取り上げた詩の内容が納得のいくものである。 | |
| A | ①と②が踏まえられており，さらに，解説文を読むことで，「見えない季節」を改めて読み直したくなるものになっている。 |
| B | ①と②が踏まえられている。（一部納得できない部分もある。） |
| C | ①もしくは②，または①②共に，適切に書かれていない。 |

### (オ) 指導計画（全７時間）

| 次 | 学習内容 | ◇評価規準（観点） | 時間 |
|---|---|---|---|
| 1 | 学習の見通しをもとう。<br>○学習内容と単元を通してどのような学習をするか確認する。<br>○疑問を感じた言葉や表現について友達と問答ゲームをしながら読み深める。 | ◇詩に表れているものの見方や考え方に触れることで，自分のものの見方や考え方を広げることができる。（読むこと）（関心・意欲・態度）<br>◇表現技法や詩の構成などについて，既習事項を復習する。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項） | 1 |
| 2 | 詩を読んで，作者の思いを考えよう。<br>○詩に表れている作者の思いについて考える。 | ◇「何が見えないだけのか，なぜ見えないだけなのか」を学習課題とし，「見えないだけ」の言葉や文のつながりを手がかりに，自分の経験に基づいて，作者の主張について考えることができる。（読むこと） | 3<br>(1) |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ◇「見えない季節とはどういうことか，どのような季節がみえないのか」を学習課題とし，「見えない季節」の言葉や文のつながりを手がかりに，自分の経験に基づいて，作者の主張について考えることができる。（読むこと）<br>◇語句の辞書的な意味と文脈状の意味との関係に注意し，詩の中の語彙について関心をもっている。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項） | (1) |
| | ○詩に表れている共通点と相違点について話し合う。 | ◇「見えないだけ」と「見えない季節」の二編の詩を比べ読みし，共通点，相違点（視点，表現，題名，表現技法，構成，主張など）をベン図にまとめ，「見えない季節」の魅力について考えることができる。（読むこと） | (1)<br>本時 |
| 3 | 解説文を書こう。 | | 2 |
| | ○解説文を書くための構成メモを書く。 | ◇「見えない季節」の魅力と，それを説明するための詩の内容について書き出し，構成メモを作ることができる。（読むこと） | (1) |
| | ○友達の詩の下書きについてアドバイスをする。 | ◇構成メモについて，詩の内容と魅力が論理的に表現されているか友達に助言をもらう。（読むこと） | |
| | ○友達のアドバイスをもとに解説文を書く。 | ◇友達からもらった助言をもとに構成メモを手直しし，自分の考えが伝わるような文章にする。（書くこと） | (1) |
| 4 | 友達の解説文を読み，批評し合おう。 | | 1 |
| | ○解説文を相互評価する。 | ◇友達が書いた解説文を読み，詩に表れているものの見方や考え方をとらえ，自分のものの見方や考え方を広げている。（読むこと） | |

**(カ) 第４時の指導（４／７時間）**

○主題

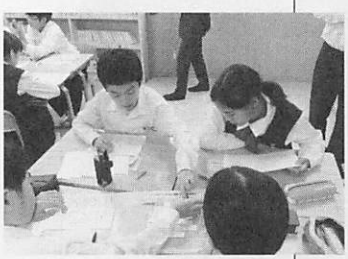
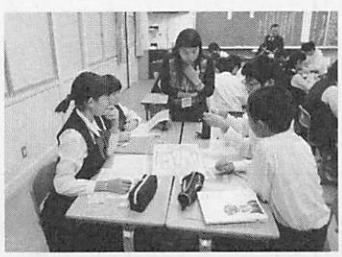
「見えない季節」と「見えないだけ」の共通点と相違点を考えることを通して,「見えない季節」の魅力について考えよう。

○ねらい

- 二編の詩の共通点と相違点を，根拠を挙げて説明することができる。
- 共通点と相違点を考えることを通して詩を理解し，魅力について考えることができる。

○展開

| 学習活動（形態） | 時間 | ○教師の働きかけ　・生徒の反応 | ○指導の工夫　◇評価（方法） |
|---|---|---|---|
| 1　本時の学習課題を確認する。　（一斉） | 5 | ○二編の詩の共通点と相違点を考えることを通して「見えない季節」の魅力について考えよう。<br>○共通点と相違点を考えることが，なぜ魅力を考えることにつながるのだろうか。<br>・共通点を考えることで，作者の特徴を知ることができる。<br>・相違点を考えることで，その詩独自のよさを発見できる。 | ○二編の詩を比較する中で，言葉を丁寧に捉え，詩を精読するよう生徒に伝えた。<br>○学習活動の意味を考えさせ，この活動がパフォーマンス課題につながっていることを意識させた。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 二編の詩の共通点と相違点はなんだろう | | | |
| 2　共通点と相違点を考える。<br>（小集団）<br>↓<br>（全体）<br> | 25<br>(10)<br><br><br><br><br>(15) | ○二編の詩を比べたとき，どのようなところに共通点があるか考えよう。<br>・どちらも自分が見ようとしなければ見えない物が表現されている。<br>・どちらも若い人を励ましているような詩だと感じる。<br>○相違点はどこか考えよう。<br>・一方は短い言葉で簡潔に表現されているが，一方は誰かに語りかけるような言葉で表現されている。<br>・一方は対句が多用されているため分かりやすいが，一方は文章のような形なので言葉と言葉のつながりが分かりづらい。 | **○ベン図と付箋を使って共通点と相違点を班で考えさせ，その根拠を話し合わせた。**<br>**【協同】**<br>◇共通点と相違点について，根拠を挙げて説明できた。<br>（ワークシートの記述分析・観察）<br><br>○小集団での話合いの内容を全体で共有することで多様な考えを知り，視野を広げた。 |
| 「見えない季節」の魅力はなんだろう。 | | | |
| 3「見えない季節」の魅力を考える。<br>（個人）<br>↓<br>（全体） | 15 | ○共通点と相違点を通して考えた，「見えない季節」の魅力を書こう。<br>・「似せてはいけないでしょうか」という悲痛な叫びを感じさせる言葉から，現在作者はどんな境遇なのかを想像させ，未来に向かわせるところ。<br>・「土の中のくらさ」という一見暗い表現の中に，明るい未来を感じさせるところ。 | ◇共通点と相違点を考えたことを基にして，詩の魅力について理由を挙げて説明できていた。<br>（ワークシートの記述分析）<br>○相違点として挙げたものが，「見えない季節」独自の魅力となり得ることを示唆した。<br> |
| 4　本時のまとめをし，次時の学習内容を確認する。（一斉） | 5 | ○二編の詩を比較したことで，どんな気付きがあったのか発表しよう。<br>・それぞれの詩のよさをいろいろな角度で発見できた。<br>○次の時間は，今日の活動を基に解説文を書こう。<br>・次の時間の解説文は，詩の言葉と自分の考えをうまくつなげて書こう。 | ○本時の振り返りを記述させ，比べ読みの成果を確認させた。 |

まず個人で付箋紙に記入し，その後ベン図に貼った。その際，詩のどの部分からそう考えたのかをそれぞれが説明した。説明が十分でなかった場合には，友達がさらに説明を求める場面が見られた。また，同じ内容を複数人が書いている場合には，その理由づけをそれぞれが説明し，意見を交換した（**図１**）。その後，魅力について考え，友だち同士で助言し合った。（**図２**）




**図１　共通点と相違点を示したベン図**

（左側が「見えないだけ」右側が「見えない季節」の特徴）

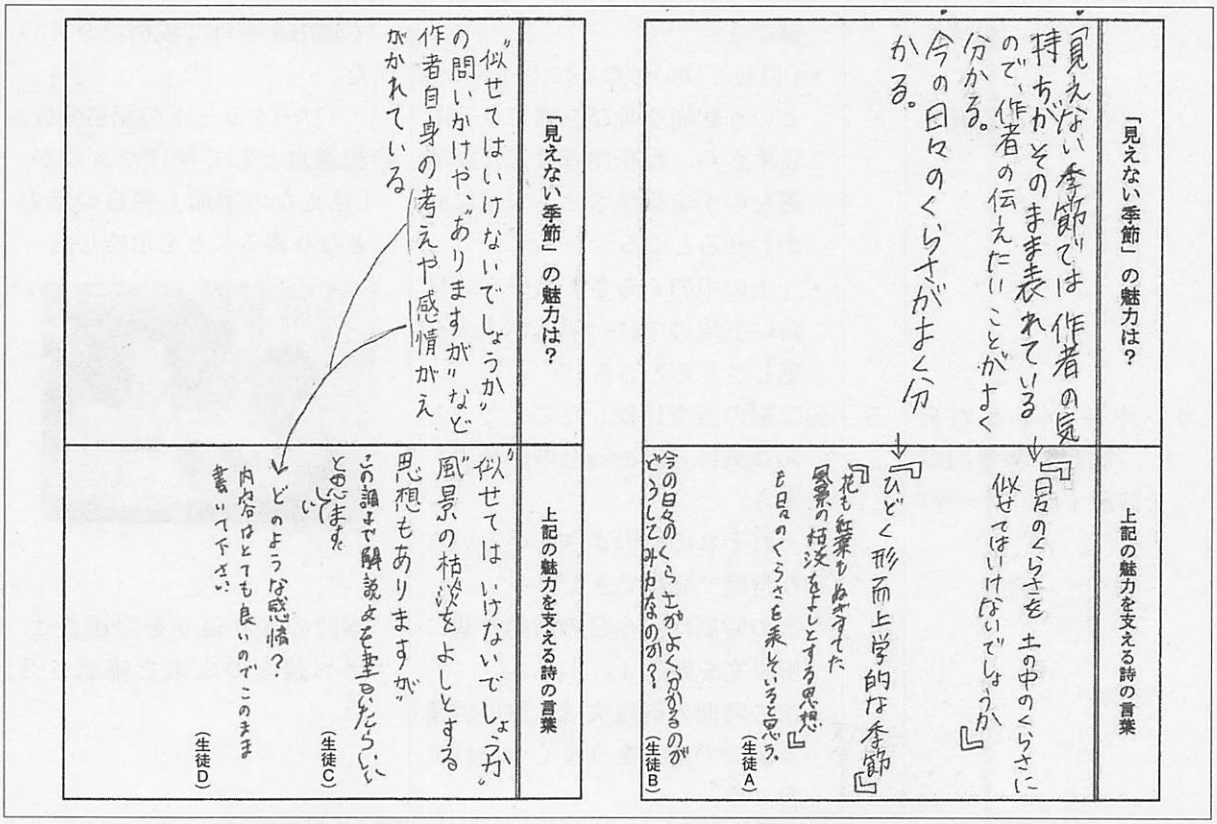



**図２　詩の魅力と，それを支える詩の言葉を記述したワークシート**

### イ　生徒の学びの実際

パフォーマンス課題である解説文をルーブリックと照らし合わせ，生徒自身が評価した。書いた生徒の名前を伏せ，一人の解説文に対して五人の生徒が根拠を明確にして評価をした。その結果，生徒がA判定としたのが19人，B判定としたのが20人，C判定はいないという結果になった。

また，ルーブリックのA判定の中に「『見えない季節』を改めて読み直したくなる」という言葉を入れたため，生徒はその判定に苦慮している様子がうかがえた。以下は，「読み直したくなる」という部分に対する根拠として生徒がコメントしたものの一部である。

- 自分が思いつかなかったところに着目していたから。
- 解説文の最後に，読み方を示してくれる一文があったから，その読み方で読んでみようと思う。
- 詩の内容を多く取り上げ，その一つ一つに解釈が書かれていたから，もう一度その視点で読んでみたいと思ったから。

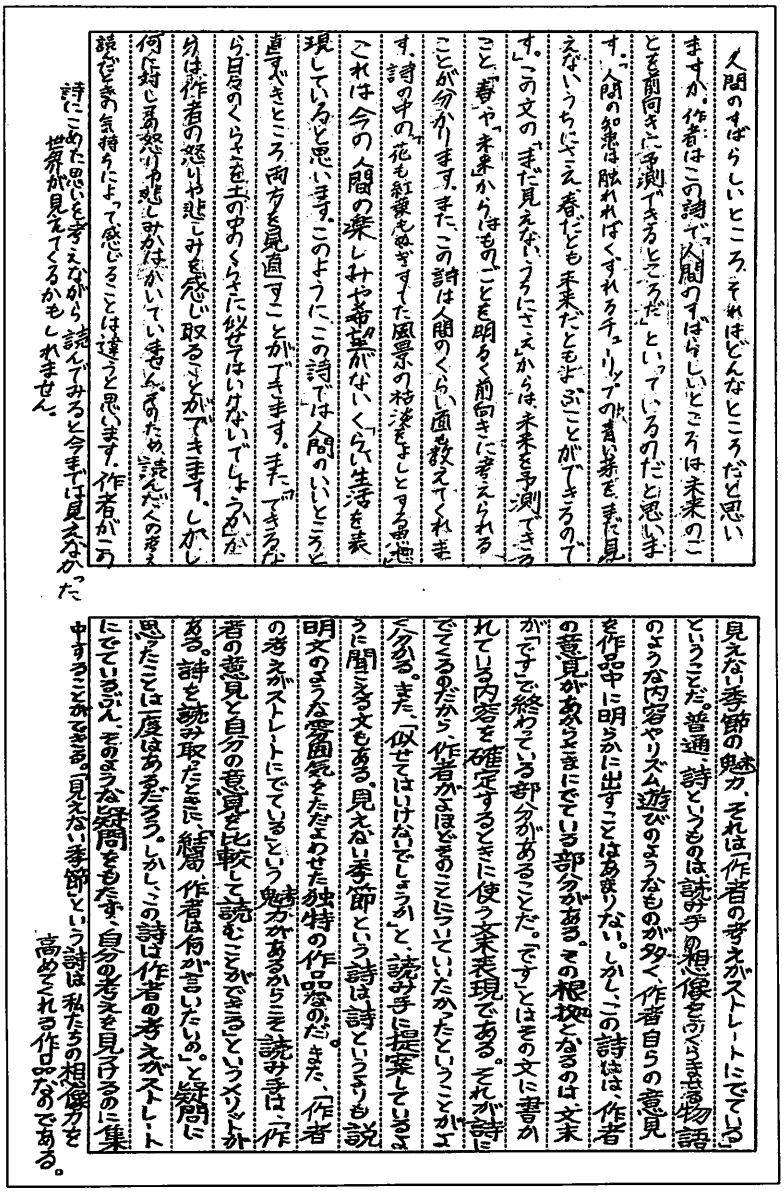


図３　第５時の「解説文」のワークシート
内容に注目したもの（上）と，表現に注目したもの（下）

また，授業の振り返りで生徒が答えた（記述した）内容を次に挙げる。

【二編の詩の共通点と相違点を事実（詩の言葉）と理由づけ（詩の言葉から読み取ったこと）を意識して友達と話し合うことができましたか。】

• よくできた　20人　• できた　19人　• あまりできなかった　０人

【友達と二編の詩を比較して話し合う中で，どんなことに気付きましたか。】

- 一つの詩を読むだけでは見つけられなかった詩の特徴，そこから見えてくる詩のよさを考えることができた。また，同じ班員に教わることもできた。
- 自分では考えられていなかったことを他の人はよく考えていて納得させられるものがあり，いろいろな角度から見ているのがすごいなと思った。
- 同じ詩でも，人によって感じ方や考え方が違っていて，比較しておもしろかった。また，二つの詩の共通点，相違点を考えることで，いろんなことが分かった。
- ふせんには同じことを書いていても，その考えにたどり着くまでは人それぞれで，考えだけでなく，その理由づけもしっかりすることが大切だと思った。
- 一人一人同じようで違う意見があって，自分の考えと比較して考えることができた。
- 同じ言葉に着目しても，人それぞれ考えることが違うので，考えの幅が広がった。

**ウ　考察**

生徒が作成したベン図やワークシートから，比べ読みをしたことで，詩の内容を読み深めることができたり，表現の違いによって詩が与える印象が違ったりと，詩の魅力を広くとらえることができた生徒がいることが分かった。「見えない季節」は，詩でありながら文章の形に近いこと，作者の思いがより強く読者に響いてくることなどは，比べ読みをしたからこそ出てきた意見なのではないかと思う。しかし，「～でしょうか」という問いかけが特徴的であること，その問いかけに込められた思いをそれぞれが考えることなどは，その詩だけでも読みを深めることができたのではないかと考えられ，読みを深める場面としては，比べ読みの有効性を十分に生かし切れなかったという課題が残る。

話合いの場面では，詩の言葉を手がかりに，自分が解釈したことを発言できたと感じた生徒が多かった。入学当初の話合い学習では，意見の根拠があいまいだったために，感情的に友達の意見が受け入れられず，友達の助言に反発する生徒もいた。また，何を手がかりに話合いを進めればよいのか困る場面もあった。しかし，自分の主張とそれに至った理由をしっかりと示すことでお互いが納得できる話合いができるようになってきていると感じる。また，話合うことのよさとして，「友だちは自分とは違った視点で読んでいたので，新たな詩の魅力を知ることができた。」「自分の意見が友達と同じだったので，自信をもって解説文を書くことができた。」など，よい方向での感想がほとんどであった。協同の学びが成果を上げているといえるのではないかと思う。

生徒が書いた解説文では，生徒はＣ判定の生徒は０名としていたが，詩の言葉を引用してはいるが，どういうところが魅力なのか具体的に書けていない生徒が５名いた。構成メモのワークシートを見ると，「どのようなところが魅力なのかを具体的に書くようにしたらよい。」という助言を友だちに事前にもらっていた生徒ばかりだったが，それをうまく活かせていなかったところに原因がある。助言をもらった後の，手直しの時間が十分に確保できなかったためにＣ判定の生徒が出てしまったと反省する。

**４　成果と課題（○成果につながること　●課題につながること）**

○詩の言葉を基に，理由づけ，主張と，筋道を立てて考えながら，詩の言葉を自分なりに解釈し，読むことができた。また，自分の意見を友だちに伝える際も，詩の言葉と理由づけを意識しながら話すことができた。そのため，友だちの多様な詩の解釈を，納得して受け入れることができた。

○比べ読みをしたことで，違いを見つけるために言葉にこだわって詩を読もうとする姿が見られた。

○協同の場面では，お互いの意見を受け入れる姿が見られた。論理的に説明したり，適切に助言をしたりと，お互いを尊重しながら課題に取り組むことができた。

●読みを深めるための比べ読みの方法について，より有効な取組を考えていく必要がある。

●パフォーマンス課題については，生徒の学習意欲を喚起し，さらに学習した力が発揮できるようなものになるよう，再考する必要がある。

●ルーブリックは，生徒に身に付けさせたい力，学習内容，生徒の実態などを考え合わせたものとしたが，言葉や考えの豊かさが活かされるように内容を吟味する必要がある。

研究（その2）

# 仲間との関わり合いの中で読みを深め，古典を味わい親しむ力の育成

（実践者）大上　航太

## 1　研究テーマ設定の理由

生徒に持続可能な社会を支える資質・能力を育成するためには，自分の経験・価値観・感性などを基に言葉を用いて課題を解決する力（自立の力）と，多様な価値観を認め，互いの個性を尊重したり他者と協調しながら進んで行動したりする力（共生の力）を育てる必要がある。そのためには，文学作品における学習課題を協同的に追究し読み深める力を育成することが効果的であると考えた。

昨年度までの取組において，課題解決，特に生徒それぞれの考えを表現する過程において，交流活動は不可欠であり，小集団による評価的な活動を取り入れることが有効であることが分かった。その際，ワークシートや付箋紙を活用して，生徒同士に「よいところ」「気に入った理由」を書かせた後交流させることで，お互いの考えを受け入れながら自分の考えの形成に生かすことができることが明らかになった。

今年度は，古典作品におけるパフォーマンス課題，そして，小集団で力を合わせ，お互いのよさを認め合いながら課題を解決する協同の場を効果的に設定するとともに，主張と事実，理由づけ（説明）を明確にしながら筋道を立てて考えたり表現したりする意識をもたせることで，一人一人の考えを論理的かつ着実に深めることができるのではないかと考えた。そして，そのことが古典を深く読み取り，その魅力を味わわせることにつながると考え，本研究テーマを設定した。

## 2　研究の内容及び方法

### (1)　生徒の実態把握

主張・事実・理由づけ（説明）を意識して考えたり記述できたりすることができているかを中心に，日頃の様子や課題に対する記述内容を基に実態を把握することにする。

### (2)　協同の学び合いの中で表現力を高める学習指導の工夫

目的を果たすために小集団で力を合わせながら自分を活かすことができるように，単元を通して持続できる課題意識をもたせる（パフォーマンス課題の設定）とともに，言語活動を単元の中で効果的に位置付ける。また，主張・事実・理由づけ（説明）を意識して考えたり記述したりするとともに，自分の考えの変化や他者との関わりについて振り返ることができるワークシート等の作成を行う。そのことで，一人一人の考えを論理的かつ着実に深め，自分が成長できたという実感をもたせる。

### (3)　生徒の活動の様子やワークシート等の分析

以上のことを通して，指導の工夫を行い，その有効性を考察するとともに，そこで得た成果や課題を以後の授業実践に生かしていくこととする。

## 3　研究の実際

### (1)　生徒の実態

本学級の生徒（40名）は明るく素直な態度で授業に臨むことができており，与えられた課題に対して真剣に取り組み，進んで発表する姿がうかがえる。ただ，発言の内容について，主張や主張の根拠となる文章中の事実については明確にできていても，事実をどう解釈したか，事実がどう主張に結びつくのかという理由づけ（説明）が欠けていたり，つじつまの合わないものであったりする傾向がある。自分の考えを深めるには，文章の内容を正確に理解することや，自分の考えを相手に分かりやすく伝えようとすることが重要である。そのためにも，主張・事実・理由づけ（説明）を意識しながら文章を理解したり自分の考えを表現したりすることが大事である。

生徒は「徒然草」を扱った単元の学習において，「『徒然草』から得られる知恵」について800字程度の意見文を書く」という課題を解決する活動を行った。その文章を見ると，約３割の生徒が主張・事実・理由づけ（説明）を筋道立てて記述することができており，約５割の生徒が自分の考えを，主張・事実・理由づけ（説明）を使って記述することができていた。それに対して，自分の考えを，主張・事実・理由づけ（説明）を使って記述することができていない生徒が全体の約２割であった。主張・事実・理由づけ（説明）を一層意識して理解・表現させることが，古典を深く読み取り，その魅力を味わわせることにつながると考える。

### (2)　論理的に思考し表現する力を高めるための工夫

論理的に思考し表現する力を高めるためには，主張，事実，理由づけを意識し，筋道を立てて考えることが必要だと考えた。そこで，文章を読み取り自分の考えを表現する際には，事実となる本文中の表現を捉えさせ，そこから自分の考えにつなぐ説明を教師側が意識して求めることにした。また，ワークシートを作成する際も，本文中の表現を基に説明を加えながら自分の考えを記述することができるように工夫することとした。

### (3)　授業の実際

### ア　指導の実際

#### (ア)　単 元 名

「平家物語」の魅力を解説する文章を書こう

#### (イ)　単元目標

「平家物語」（扇の的）の魅力を解説する文章を書くことで，登場人物の心情などを理解し，古文に表れているものの見方や考え方の価値に気付く。

〔本質的な問い〕

古典作品の魅力を味わうにはどうすればよいか。

〔永続的な理解〕

古典作品に登場する人物の心情などを文章の表現を基に想像し，古典作品に表れているものの見方や考え方に触れ，その価値に気付くことが大切である。

#### (ウ)　評価目標と評価方法

| 評　価　目　標 | 評　価　方　法 |
|---|---|
| ①　古典に表れたものの見方や考え方に触れることで，古典の世界に親しむとともに，交流活動を進んで行い，自分の考えを広げたり深めたりしようとする。（関心・意欲・態度） | ◎パフォーマンス課題<br>・「あなたは有名な古典文学研究者です。『平家物語』の「扇の的」の魅力を解説する文章を中学生が読む雑誌に載せる仕事が入りま |
| | |

| | |
|---|---|
| ② 文章に表れているものの見方や考え方について，知識や体験と関連付けて自分の考えをもっている。（読むこと） | した。「扇の的」の魅力が中学生にもわかるように解説文を書いてください。」 |
| ③ 古典に表れたものの見方や考え方に触れ，登場人物の心情を想像することができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項） | ○小集団活動の観察（①）<br>○ワークシートの記述分析（①②③） |

### (エ) ルーブリック

| | 「扇の的」の魅力として挙げた主張は正しいか。 | 「扇の的」の魅力が伝わってくるか。 |
|---|---|---|
| A | ○主張が文章中の表現を基に説明されたものだと言える。<br>（その通りだと思える） | ○魅力がとても伝わってくる。<br>・読んでいてわくわく（ぞくぞく）するような興奮する（共感できる）内容がある。<br>・もう一度読み返したくなる。 |
| B | ○大体の主張が文章中の表現を基に説明されたものだと言える。<br>（一部は勝手な解釈に思える） | ○魅力が伝わってくる。<br>・もう一度読み返したくなる。<br>・興奮する（共感できる）内容ばかりではない。 |
| C | ○多くの主張が文章中の表現を基に説明されたものだと言えない。<br>（半分以上が勝手な解釈に思える） | ○魅力があまり感じられない。<br>・もう一度読みたいとはあまり思えない。<br>・興奮する（共感できる）内容があまりない。 |

### (オ) 指導計画

| 次 | 学習内容 | ◇評価規準（観点） | 時間 |
|---|---|---|---|
| 1 | 学習の見通しをもとう。<br>○学習内容と単元を通しての目標を確認する。<br>○「平家物語」について知る。 | ◇「敦盛最後」に表れた登場人物のものの見方や考え方に触れることで，古典の世界に親しむ。（関心・意欲・態度） | 1 |
| 2 | 扇の的」の面白さを解説する文章を書こう。<br>○「敦盛最後」の解説文（教師自作）を読み，今後の活動の見通しを立てる。<br>○文章を読み，那須与一など，登場人物の心情について考える。<br>○解説文の下書きを書く。<br>○仲間同士で文章の下書きについてアドバイスをし合う。<br>○話し合ったことを基に課題の文章を書く。 | ◇那須与一など，登場人物のものの見方や考え方について，知識や体験と関連付けて自分の考えをもっている。（読むこと）<br>◇書いた文章をお互いに読み合い，進んで意見を述べたり助言をしたりして，自分の考えを広げようとしている。（関心・意欲・態度）<br>◇那須与一など，登場人物の心情を想像し，古典に表れたものの見方や考え方に触れている。（伝統的な言語文化） | 4 |
| 3 | お互いの解説文を読み合おう。<br>○お互いが書いた文章を相互評価する。 | ◇登場人物のものの見方を想像しながら，他の生徒の書いた文章や「扇の的」を読み返している。（伝統的な言語文化） | 1 |

「平家物語」は平安から鎌倉時代にかけての，平家一門の繁栄と滅亡の様子が描かれたものである。世の中の人や物は常に変化し，永久不変のものはないという無常観は時を経た現代でも人間の心を打つテーマである。

本単元では，「平家物語」の世界に触れさせることで，那須与一などの登場人物のものの見方や考え方について理解を深めさせたい。また，お互いが書いた文章について話し合ったり書いたりする活動を取り入れることで，筋道を立てて考えたり表現したりする力を発揮させながら，仲間と協力して課題解決する力を育てるとともに，多様な価値観や考え方を認め，生徒自身の考えを深めさせたい。

本単元の目標（「平家物語」（扇の的）の魅力を解説する文章を書くことで，登場人物の心情などを理解し，古文に表れているものの見方や考え方の価値に気付く。）を達成するために，次のことに留意して指導したい。

一つ目は，パフォーマンス課題の工夫である。生徒に単元を通して持続する課題意識をもたせるとともに，平家物語に出てくる登場人物のものの見方について考え，それを基に解説文を書かせるものとする。

二つ目は，課題解決のために協力して意見を出し合う「きょうどう」の学びを発揮させる場を設定することである。今回は「扇の的」の文章を読み取らせるとともに，その魅力を解説した文章がよく分かるものであるか仲間同士で話し合ったり，主張と事実，理由づけ（説明）のつじつまが合っているか指摘し合ったりする活動を取り入れる。

三つ目はワークシートの工夫や付箋紙の活用である。那須与一の心情などについて自分が考えたこと（主張），「扇の的」の記述（事実），事実を主張につなげる説明（理由づけ）を，整理して筋道立てて文章に表すことができるようにするとともに，話合いの際，付箋紙を利用しながらよいところやアドバイスを指摘させ合うことで，課題を解決し考えを深めさせることに役立てたい。

**(カ) 第４時の指導（４／６）**

○主題 「扇の的」の魅力を解説する文章の下書きについてお互いにアドバイスをしよう。

○ねらい

- 書いた文章をお互いに読み合い，進んで意見を述べたり助言をしたりすることができる。
- 相手の助言から那須与一の心情などについて考えを広げることができる。

○展開

| 学習活動（形態） | 時間 | ○教師の働きかけ　・生徒の反応 | ○指導の工夫　◇評価（方法） |
|---|---|---|---|
| 1　本時の学習の目当てを確認する。<br>（一斉） | 5 | ○班で協力しながらお互いの文章を見直すことで，「扇の的」の魅力がよく分かる文章にしよう。 | ○小集団で積極的に話合いが行えるように学習の目当てを明示した。 |
| 2　書いた文章について交流する。<br>（小集団）<br>↓<br>（全体） | 25 | 書いた内容についてみんなで交流しよう。<br>・主張を裏付けるための事実（文章中の表現）がぴったりでよい。<br>・那須与一が扇を射る直前に「興奮した」と思っているのはどうしてか，もう少し説明を加えるとよいのではないか。 | **○自分の考えをよりよいものにするために小集団で交流させた。その際，付箋紙を活用させた。【協同】**<br>◇付箋紙を使いながら相手への助言などを積極的に行っている。<br>（観察・ワークシートの記述分析） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 3　交流したことを基に自分の表現を見直す。<br>（個人） | 10 | ○自分の表現を見直そう。<br>・事実については自信をもって文章に書けるな。<br>・分かりやすい解説文にするためには，事実の引用だけでなく，その説明が大事なんだな。 | ◇相手の助言を基に自分の表現を見直し，那須与一の心情などについて考えを広げている。<br>（観察・ワークシートの記述分析） |
| 4　本時のまとめと次時の活動内容の確認を行う。<br>（個人）<br>↓<br>（一斉） | 10 | ○交流した成果を振り返ろう。<br>・交流によって自分の考えが広がった。<br>・友人のアドバイスで説得力のある解説文になりそうだ。<br>○今日の活動を基に次の時間に清書を書こう。<br>・次の時間は自信をもって文章を書くことができそうだ。 | ○本時の振り返りをワークシートに記述させることで，交流を行ったことによる成果を確認させた。 |
| 授業研究の視点 | | ○付箋紙を使いながら話合いを行わせたことは，進んで意見を述べたり助言し合ったりすることや，お互いのよさを発見させ自己の肯定感を高めることにつながったか。<br>○登場人物の心情を，事実（文章中の表現）・理由づけ（説明）を意識しながら表現させたことは，古典に表れたものの見方や考え方に触れさせるのに効果的だったか。 | |

**イ　生徒の学びの実際**

パフォーマンス課題に対する生徒の解説文をルーブリックと照らし合わせた結果，Aが30人（77%），Bが９人（23%），Cが０人（０%）であった。ただし，『「扇の的」の魅力として挙げた主張は正しいか」（主張が文章中の表現を基に説明されたものか)』の項目に限ると，Aが37人（95%），Bが２人（５%），Cが０人（０%）であった。

次に，第４時で生徒が使用したワークシートと第５時に生徒が書いた解説文を載せる。

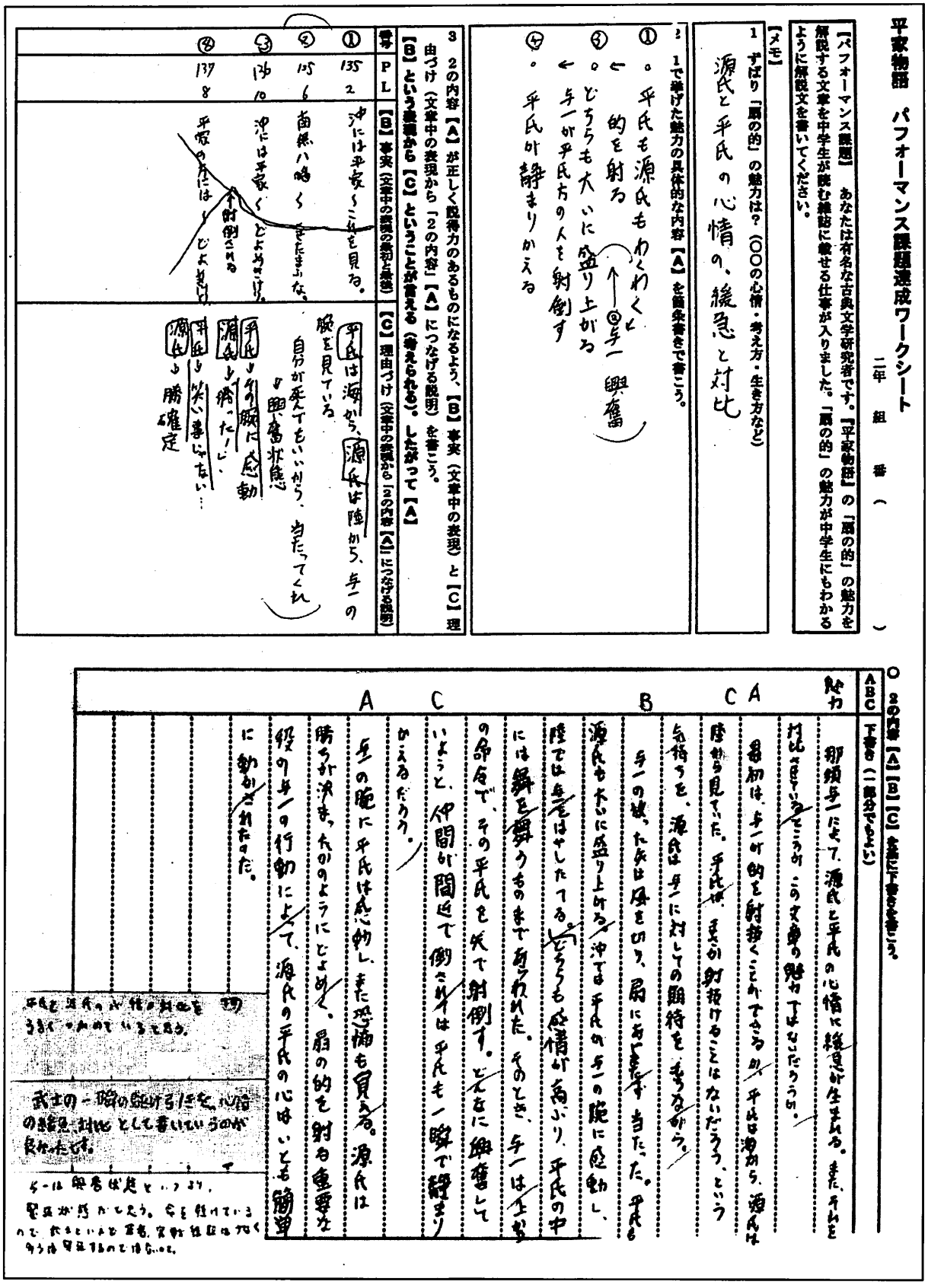



図１　第４時で使用したワークシート

上側のワークシートは，主張，根拠，理由づけを筋道立てて考えられるように書く欄を分けた。下側のワークシートは上の内容を基に下書きを書くようにした。その際も主張，根拠，理由づけを意識して書けるようにした（上段）。左下の付箋は，ワークシートの記述に対して班員がよいと思ったこと，アドバイスをそれぞれ書いたものである。

扇の的の魅力

那須与一によって、源氏と平氏の心情に緩急が生まれる。またそれを対比させているところがこの文章の魅力ではないだろうか。

最初は、与一が的を射抜くことができるか、平氏は海から、源氏は陸から見ていた。平氏は、まさか射抜けることはないだろう、という気持ちを、源氏は与一に対しての期待をもちながら。そして、当の本人、那須与一はものすごく緊張していたことだろう。自分でも「これを射損じれば、自害する」と自信を奮い立たせていたぐらいなのだから。

与一の放った矢は風を切り、扇にあやまたず当たった。平氏も源氏も大いに盛り上がる。沖では平氏が与一の腕に感動し、陸では源氏が与一をはやし立てる。

どちらも感情が高ぶり、平氏の中には舞を舞うものまであらわれた。敵なのに源氏の前で平家が油断するくらい、与一の腕はすばらしいものだったのだ。しかし、そんな平氏を、与一は上の命令で射倒す。それも正確に。先ほどまでひどく緊張していたり、また「外せば死ぬ」と興奮していたりしていた与一。その時とは裏腹に「人を殺す」という行為を冷静に犯してしまったのだ。どんなに興奮していようと仲間が間近で倒されては、平氏も一瞬で静まりかえるだろう。

与一の腕に平氏は感動し、また恐怖も覚える。源氏は勝ちが決まったかのようにどよめき与一をはやしたてる。与一は自分の心と体を奮い立たせることによって二つをつなげ、行動に移す。扇の的を射るという重要な役の与一の行動によって、源氏と平氏の心はいとも簡単に動かされたのだ。

海と陸で場所は違っても、人の心は同じ。一人の人物を見守る中でいろいろな感情がわいてくる。源氏と平氏、それから与一によって生み出される人々の心情の緩急。それがこの物語の魅力である。

**図２　第５時に書いた解説文**

**第４時のアドバイスを受けて，下書きに修正を加えながら解説文を書いている。**

次に，授業における振り返りで生徒が答えた（記述した）内容の主なものを次に挙げる。

〈第４時終了後〉

【主張（魅力），事実（文章中の表現），理由づけ（説明）を意識して文章を読んだり書いたりできたか。】

よくできた　19人　　できた　20人　　あまりできなかった　１人　　全くできなかった　０人

【主張・事実・説明を意識して話し合うことができた。】

よくできた　29人　　できた　10人　　あまりできなかった　０人　　全くできなかった　０人

【友達と交流してよかったこと。（自由記述）】

○自分が工夫した点をしっかりと班の人が分かってくれて「いいね」と言われたのがうれしかったです。次の課題も見つけられたのでしっかり直し，説得力のある文にしていきたいです。

○私の班は主張に対しての事実が短くまとめられている人が多かった。その文を見て「私はどうだろうか」と思ったが，主張に対する事実をしっかりつかめているというコメントをもらい安心した。

○それぞれ魅力と考える事が違っていて，いろいろな考えを知ることができた。人の作品を読むことでどうすれば相手に伝わりやすいか，読み手目線で考えることができた。

○自分ではしっかり説明できていると思っていても客観的に見てもらうと，まだ理由づけが甘かったり，事実の関連が甘くなったりしていた。

○他の人の文を読んで「こうした方がいいな」と思ったことが自分にも当てはまっていた。自分の文は先入観で見逃してしまうことも他の人のを見て直せたことがよかった。

○どこがよく分かり，どこが分かりにくいか知れたので話合いがとても役にたった。また，相手の分かりにくいところもしっかり指摘できて，その人のためになったと思うのでよかった。

〈単元終了後〉

【「平家物語」の文章について考えたこと。（自由記述）】

○平家物語には事実が分かりやすく書かれてあり，その場をよく想像できる文で書かれてあるので読むのがとても楽しく感じました。

○事実しか述べていない文章だと思っていたが想像力が試されるよい文章だと改めて感じた。中でも「扇の的」はとても深く読みいってしまう文章だった。このような昔の人が書いた文章をいくつか読んでみたいと思った。

○じっくりと読んでみるとあらゆるところに魅力がちりばめられていて，読みやすく深い文章であったと考えました。もっとたくさんの魅力を見つけ出したいです。

○平氏，源氏の戦いについて深く入り込みました。この文章から，油断をしていてはいけないということを学びました。さらに読んで深く入り込んでいけたらいいなと思います。

○平家物語はあくまでも軍記物語ですが，そこからは人々の心情の変化が伝わってきて「軍記物」という言葉ではまとめきれないほどの人間ドラマがあるように思いました。

○それぞれの登場人物の心情についてあまり描かれていないが，読む人によっては様々な考えができ，そしてそれがその人の物語になる，そこが平家物語のよさだと思った。

○「心情の変化」「武士の世の非情」「細やかな情景」が読み手に分かりやすいように表現されているのが魅力である。人によって観点は違っていても共感できるのも，平家物語が読み手に分かりやすく作られているからなのだろう。

【登場人物の考え方や生き方，心情に触れたり考えたりしたことで，学んだことや思ったこと。(自由記述)】
○私は，平家物語が描かれた鎌倉時代から現代にまで通じる物語があり感動しました。また，ずっと受け継がれているところからロマンのようなものを感じます。
○那須与一は武士だけど，その考え方や生き方は現代人の理にもかなっていると思いました。「自害」など当時の武士にしか分かり得ないものもあるけれど，「覚悟」や「責任感」などには我々も学ぶべきものがあるのではないかと思います。
○文章にはこんなにも登場人物たちの心情の変化を書き表す力があるのかと思いゾクゾクしました。周りの様子もあわせて文章を書くことでさらに魅力的な物になることが分かりました。私も文章を書くときに，そんなふうに書けるよう頑張りたいです。
○私は集中力と気持ちの強さについて書きました。そこから学んだのは，何事も失敗を恐れず挑戦することが大切だということです。これからの生活に生かしたいです。
○私は与一の心情を中心に書いたが，クラスメイトの中には「武士の世」「情景→感情」というように他の面からも「扇の的」の魅力ととらえていて面白かった。

**ウ　考察**

パフォーマンス課題の設定により，単元を通して意欲をもって課題を解決しようとする生徒の姿につながった。また，お互いの解説文をよりよいものにするために積極的に小集団で協力する姿勢も伺えた。今回は「有名な古典研究者が中学生雑誌に載せる仕事」という設定で「解説文を書く」というパフォーマンス課題であったが，それにより，魅力を見つけ出すために意欲的に活動に取り組むことができた反面，客観的に魅力を捉えようとしすぎた傾向がある。第３時までに，主観が入ってもよいから「扇の的」の魅力により迫れるような教師の働きかけがあればよかった。また，パフォーマンス課題を，より生徒の実態や生活にあったものにするなどの工夫が必要である。

解説文を書くためのワークシートの作成を行った際，「扇の的」の魅力【A】が正しく説得力のあるものになるよう，【B】事実（文章中の表現）と【C】理由づけ（文章中の表現から「扇の的」の魅力【A】につなげる説明）をふまえて書かせるようにした。また，考え方として，「【B】という表現から【C】ということが言える（考えられる)。したがって【A】」というひな形を提示したことで，ほとんどの生徒が主張と事実，理由づけ（説明）を明確にしながら筋道を立てて考えたり表現したりすることを意識することができた。その結果，古典に表れたものの見方や考え方に触れさせ，一人一人の考えを論理的かつ着実に深めることができた。ただし，主張の中には事実（引用）を挙げるだけで，周知のこととして説明できるものもあった。必ずしも理由づけを必要としない場合があることを教師側が分かった上で指導に当たれば，型にしばられすぎない，より豊かな表現を生むことにつながると考える。

また，よりよい解説文にするために，小集団で力を合わせ，お互いのよさを認め合いながら課題を解決する協同の場を設定したことで，相手を認める意識をもったり，あるいは相手に認めてもらうことで自己肯定感をもったりしながら読みを深めることができた。また，「よいところ(青)」「アドバイス（緑)」２色の付箋紙を交流する際に活用することで，相手を認める意識をもったり，あるいは相手に認めてもらうことで自己肯定感をもったりしながら新たな発見に結びつけることができた。その結果，古典の魅力を味わい親しむことができた。

**４　成果と課題（○成果につながること　●課題につながること）**

○主張，事実，理由づけを意識し，筋道を立てて考えさせる機会を意識して設けたことで，論理的に思考し表現する力を高めるとともに，一人一人の考えを論理的かつ着実に深めることができた。そのことが古典を味わい親しむことにつながった。
○小集団で力を合わせお互いのよさを認め合いながら課題を解決する協同の場を設定したことで，相手を認める意識をもったり，あるいは相手に認めてもらい自己肯定感をもったりしながら課題解決に向かわせることができた。
●パフォーマンス課題を，教材や生徒の実生活に合ったものになるよう，さらに検討をしていく必要がある。
●国語科で身に付けさせたい豊かな想像力，表現力のためには，型にはまった考え方，表現にとらわれすぎないことを教師が理解していることが重要である。発達の段階や生徒の実態を考慮しながら，確かで豊かな表現ができるよう系統立てて指導していく必要がある。

研究（その３）

# 他者との対話的な学びを通して，文学作品を読み深める学習活動の工夫

（実践者）丸山　佑樹

## １　研究テーマ設定の理由

生徒が将来直面する複雑で多様な問題を解決するためには，自らの知識や技能が必要であることはもちろん，他者の力を借りて知恵を結集させたり，協力して問題解決に取り組んだりしなければならないと考えられる。持続可能な社会は，このような多様な主体が状況や相互関係に応じて互いに連携・協力することにより構築されるものである。

国語科の文学作品を読むの授業では，読み手による文章の多様な読取が認められる。文章を読み取るには，言葉を拠りどころにし，独りよがりの考えに陥ることなく，他者の考えを参考にしながら自分の考えを深める活動が必要である。本研究では，文学作品を読み深めるための学習課題を，生徒が他者と考えを練り合う対話的な学びで解決していく授業を構成することで，興味をもって学習に臨み，またより深く文学作品を読む力を伸長させることができると考え，本研究テーマを設定した。

## ２　研究の内容及び方法

### (1)　事前アンケート等による生徒の実態把握

事前にアンケートを実施し，生徒の実態を把握し実践後との比較を行う。

### (2)　文学作品を読み深める学習指導の工夫

ア　論理的な思考を促す文学作品の読取の指導

イ　協同的な学びの場の充実

### (3)　生徒の活動の様子やワークシート等の分析

(2)の実践による評価を，授業における生徒の様子を観察したり，授業で書かせたワークシートを分析したりして，今後の指導・研究に役立てる。

## ３　研究の実際

### (1)　生徒の実態

本学級の生徒（37名）は，互いの考えを発表し合う活動に大変積極的である。アンケート調査の結果でも，ペア・グループ・全体での対話的な学びが学習内容の理解や学習課題の解決において有効であると感じている生徒がほとんどである。国語の授業が好きだと回答した生徒の中にも，対話的な学びである「話合い活動があるから」という理由を挙げている生徒が多く，９割以上の生徒が積極的に話合い活動に参加している。

しかし，この対話的な学びにおいて，本学級の生徒には課題もあると考えられる。一つ目は，主張と根拠が明確でないことである。「筆者が登場人物の生き方を描くことを通して，読み手に何を伝えようとしているか」という，物語の読取について考えを深める課題において，文章全体から読み取った自分の考えを，根拠を基に理路整然と書けているものが全体の40％程度であった。この内，根拠が本文に書かれてある事実を列挙するだけになっているものがほとんどであった。主張を裏付ける根拠は，本文に書かれている事実だけでなく，それを自分がどう読み取っているかという解釈の両方があって，より説得力のある論理となる。しかし，主張，それを裏付ける事実をどう解釈したかの三つの要素が十分に書かれているものはごくわずかであった。また，授業

中の発表や話合い活動での表現の場面では，同じ内容を繰り返したり，発表しながら主張と根拠の不整合性に気付いて発表しきれなかったりする生徒もいた。

二つ目は，文章をさらに読み深めるために互いの考えを練り合う対話的な学びが行えていないことである。「ペア・グループ・全体などで話し合うことの目的は何か」という対話的な学びの目的を問う質問の回答では，「コミュニケーション能力の向上」「他者から新しい考えや視点を得る」が大半であった。「話合い活動」によって自分の読取を深めたり，他者の考えによって自分の考えが変容したりするために対話的な学びが有効であるという実感が少ないことがわかる。

本生徒は対話的な学びである「話合い活動」に積極的なので，主張と根拠を明確にして論理的に表現することや，他者の多様な読取から文章をより深く読むための対話的な学びを重視して授業を展開していきたい。

**(2) 論理的に思考し表現する力を高めるための工夫**

論理的に思考したり，表現したりする力を高めるための工夫として実践したことを三点挙げる。

一つ目は，文章を論理的に読み取る指導の工夫である。文章を四つの構造に分け，「導入部」「展開部」「山場の部」「終結部」とする。それぞれのまとまりで読み取る内容を明確にすることで，生徒は目的意識をもって文章を読むことができる。読み取る内容は，「導入部」では作品の時・場・人の設定，「展開部」では主要人物の言動に注目しながら事件の展開や人物関係を，「山場の部」ではクライマックスを中心として文章の大きな転換点を，「終結部」ではこれまでの内容を踏まえて主題を捉えるというものである。このように文学作品を四つの構造に分けて読むことで，本文中の言葉（事実）を拠りどころにした根拠のある論理的な読取ができる。

二つ目は，自分の考えを整理するための工夫である。登場人物の心情の変化を折れ線グラフで表したり，本文の記述を一定の観点で抜き出して表にまとめたり，友人の作文の分析を２観点でグラフを使って評価したりと，感覚的な読取ではなく客観的に文章を読み取れるように思考ツールを用いる。これによって，なんとなく読み取るのではなく明確な根拠を用いた読取ができ，思考が整理される。

三つ目は，対話的な学びを充実させるための問いの工夫である。対話的な学びには明確な解のない問いを用いる。「向田邦子はなぜ戦争の悲惨さを直接伝えないのか」「向田邦子は父のことをどう思っているか」といった問いは，本文に明確な解が書かれてあるわけではない。生徒はこれまでの学習によって読み取ったことや本文に書かれてある言葉を再度吟味し，自分の考えを整理していかなければならない。また，明確な解がない問いに対して，各自が多様な考えをもつ。その考えを，言葉（事実）を拠りどころにした根拠を基に他者に説明することで論理的な表現力を伸ばすことができる。さらに，このような学習指導の工夫をすることで，他者の考えと自分の考えを比較し，自分の考えが広がったり，深まったりして，文章に立ち現れる人間のものの見方や考え方に迫っていくことができる。

**(3) 授業の実際**

**ア 指導の実際**

**(ｱ) 単 元 名**

関わりの中で ―「字のない葉書」（向田邦子）―

**(ｲ) 単元目標**

文学作品に描かれている人間についてのものの見方や考え方を，他者の考えを参考にしながら読み深め，自分の考えとしてまとめることができる。

〔本質的な問い〕

文学作品に立ち現れる人間についてのものの見方や考え方を読み取り，自身の考え方と対照させるにはどのようにすればよいだろうか。

〔永続的な理解〕

ストーリー展開，人物関係，心情などを言葉を拠りどころに読み取り，自分の考えを論理的に表現しながら，他者との対話の中でさらに読みを深めることが大切である。

**(ウ) 評価目標と評価方法**

| 評価目標 | 評価方法 |
|---|---|
| ① 文学作品に表れる人間についてのものの 見方や考え方を読み取り，他者との対話的な学びによって，自分の考えをさらに深めようとする。<br>（関心・意欲・態度） | ◎パフォーマンス課題<br>文章中の登場人物，私（作者），父，母，末の妹の中で最もつらかったのは誰かについて，自分の考えを論じなさい。<br><br>○授業中の活動観察（①）<br><br>○ワークシートの記述分析（②③） |
| ② 人物の言動や様子の描写から，文章に表れている人間についてのものの見方や考え方を読み取り，それに対する自分の考えをもっている。<br>（読むこと） | |
| ③ 人物の心情や考えを表す語句の効果的な用い方について理解を深め，自分の表現に役立てさせる。<br>（伝統的な言語文化と国語に関する事項） | |

**(エ) ルーブリック**

| 自分の考えを論じることができているか。 |
|---|
| A　主張を裏付ける根拠が明らかで，矛盾することなく考えに納得がいく。 |
| B　主張と根拠のつながりが薄く，明確な裏付けになってはいない。 |
| C　事実（本文）に対する読取が不十分である。 |

**(オ) 指導計画（全８時間）**

| 次 | 学習内容 | ◇評価規準（観点） | 時間 |
|---|---|---|---|
| 1 | 文学作品を読み取ろう。<br><br>○導入部から，文章の設定や時代背景を読み取る。<br>○展開部から，父に注目して事件の展開を読み取る。<br>○父の視点で山場の部を書き換え，父の心情を読み取る。<br>○山場の部や終結部から主題に迫る。 | ◇文学作品に表れる，人間についてのものの見方や考え方を読み取ろうとしている。（関心・意欲・態度）<br>◇人物の心情や考えを表している描写を本文から見付け，読み取っている。（読むこと）<br>◇文章の構造を捉え，各まとまりごとに本文の内容を読み取っている。（読むこと）<br>◇文中の人物の心情や考えを表す描写を，自分の表現に役立てて書き換えている。<br>（伝統的な言語文化と国語に関する事項） | 5 |
| 2 | 読み取ったことを自分の言葉でまとめよう。<br><br>○対話的な学びで多様な考えを知り，理解を深める。<br>○パフォーマンス課題に取り組み，自分の考えをまとめる。 | ◇これまでの学習で文章中から読み取ったことや，対話的な学びで得たことを踏まえて，文章を読み深めて，自分の解釈をまとめている。（読むこと） | 2 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 3 | 友だちの作文を読み合おう。<br>○自分の考えと他者の考えを比べながら互いの作文を読み合う。 | ◇友だちの作文に表れている他者の解釈を読み取り，自分の考えと対照しようとしている。<br>（関心・意欲・態度） | 1 |

**(カ) 第6時の授業（6／8）**

① 主題　　自分の考えを論理的にまとめよう

② ねらい

• 対話的な学びの中で自分の主張を根拠を明らかにして表現する。

○ 展開

| 学習活動（形態） | 時間 | ○教師の働きかけ • 主な生徒の反応 | ○指導の工夫　◇評価（方法） |
|---|---|---|---|
| 1　前時の学習を振り返る。　（一斉） | 3 | ○文章の読取について，学習してきたことを振り返ろう。 | ○これまでの学びを本時に生かすよう見通しをもたせた。 |
| 2　課題を明確にする。　（一斉） | 2 | 私（作者）・父・母・末の妹のうち，一番つらかったのは誰だろうか。 | ○パフォーマンス課題について説明し，自分の考えをもたせる。その際，文学作品の記述を根拠として挙げて論じるよう意識させた。 |
| 3　対話的な学びを通して，自分の考えを深める。<br>（全体）<br> | 25 | ○自分の主張を裏付ける根拠を，本文中の言葉（事実）とそこから読み取った自分の解釈を明らかにして述べよう。<br>• 父だと思う。それは末の娘を疎開に出したことで自分の選択を後悔した場面から，家長としての責任を感じていたと思うから。<br>• 母だと思う。わがままな父に黙って付いていき，家族を陰から支え続けていて，弱音を吐くこともできなかったから。 | **○自分の考えを整理するためにペアで話し合う時間を設定する。その際，必ず根拠を述べるよう指示した。**<br>**【協同】**<br>**○多様な考えにふれて自分の読取を深めさせるために，生徒から出た意見に対して発問をし，全体で考えさせた。　【協同】** |
| 4　自分の考えを文章にまとめるための構成メモを作る。<br>（個人）<br>↓<br>（ペア） | 18<br>(15)<br>(3) | ○最終的な自分の考えをまとめる文章を書くための，構成メモを作ろう。<br>○完成した構成メモを基にペアと話合い，論理的に表現することができる構成になっているか検討しよう。 | ○本時の話合い活動やこれまでの文学作品の読取を振り返らせて，課題に対する最終的な自分の主張を論じるための構成を考えさせた。<br>◇文中の記述（事実）から読み取ったことを根拠に自分の主張が述べられているか。<br>（観察） |
| 5　本時の学習を振り返り，次時への見通しをもつ。<br>（個人） | 2 | ○本時の学習内容を振り返り，学んだことや分かったことを授業の記録カードに記入しよう。 | |

### イ　生徒の学びの実際

本授業における対話的な学びは，教師がファシリテーターの役割を担って進めた。生徒の考えを引き出し，その考えに対して意見をつなげたり，さらに踏み込んで考えさせたい意見については，教師が思考を促すように発問をしたりしながら，生徒たちの読みを深めていった。生徒たちの発言はおおむね本文にある記述を基に，自分なりの読取を理路整然と説明することができていた。また，「最もつらかった人物は誰か」という意見が話合い活動の前後で変化した生徒が16人いたことからも，それぞれの発言が説得力のあるものであったと言える。中でも，最もつらかった人物が母だと考えた生徒が話合い前は１人であったが，話合い後には９人に増えたのは１人の意見から全体で母のつらさについて読み取りを深めたからであると言える。

パフォーマンス課題に対する生徒の作文をルーブリックと照らし合わせた結果，Ａが11人，Ｂが24人，Ｃが２人であった。

第６時で生徒が使用したワークシートと，第７時にパフォーマンス課題として生徒に書かせた文章を載せる。

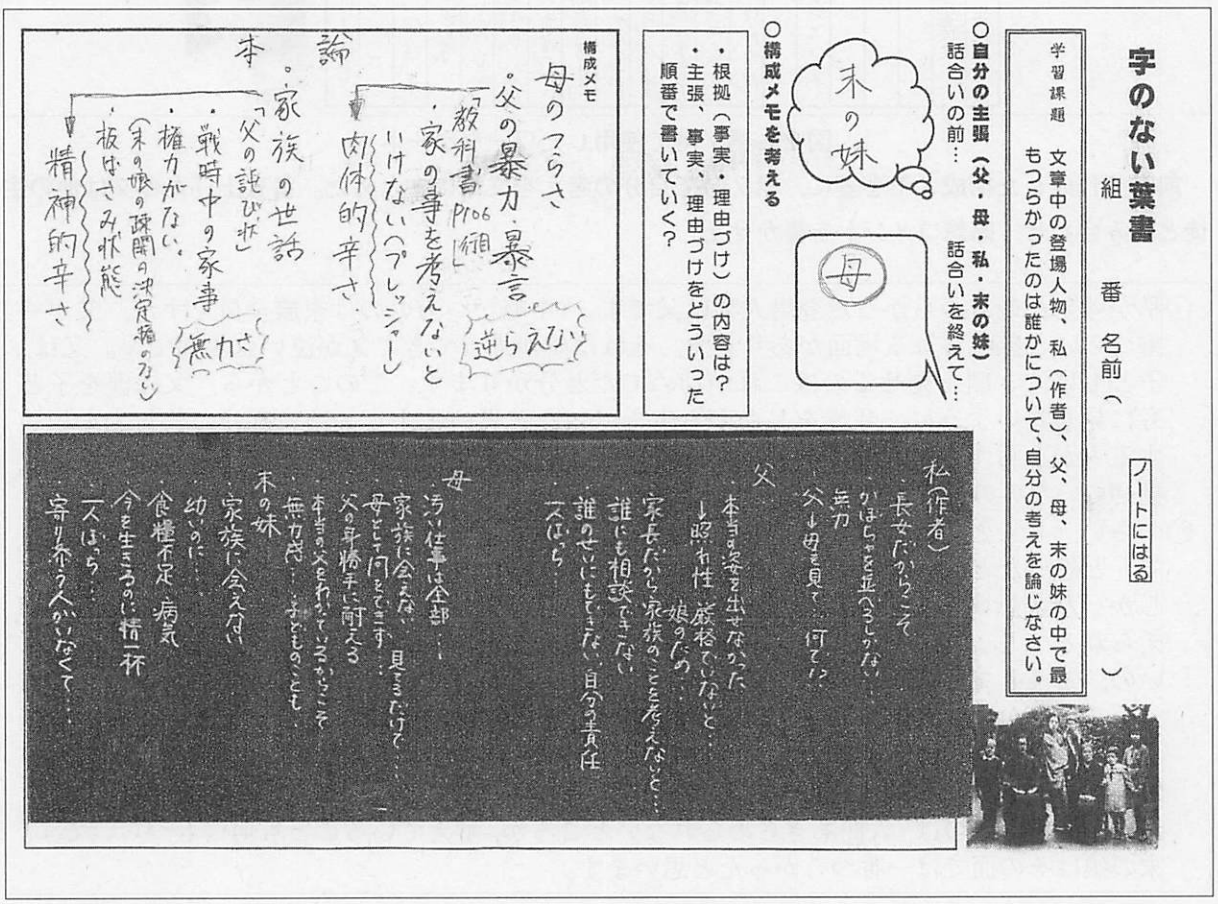
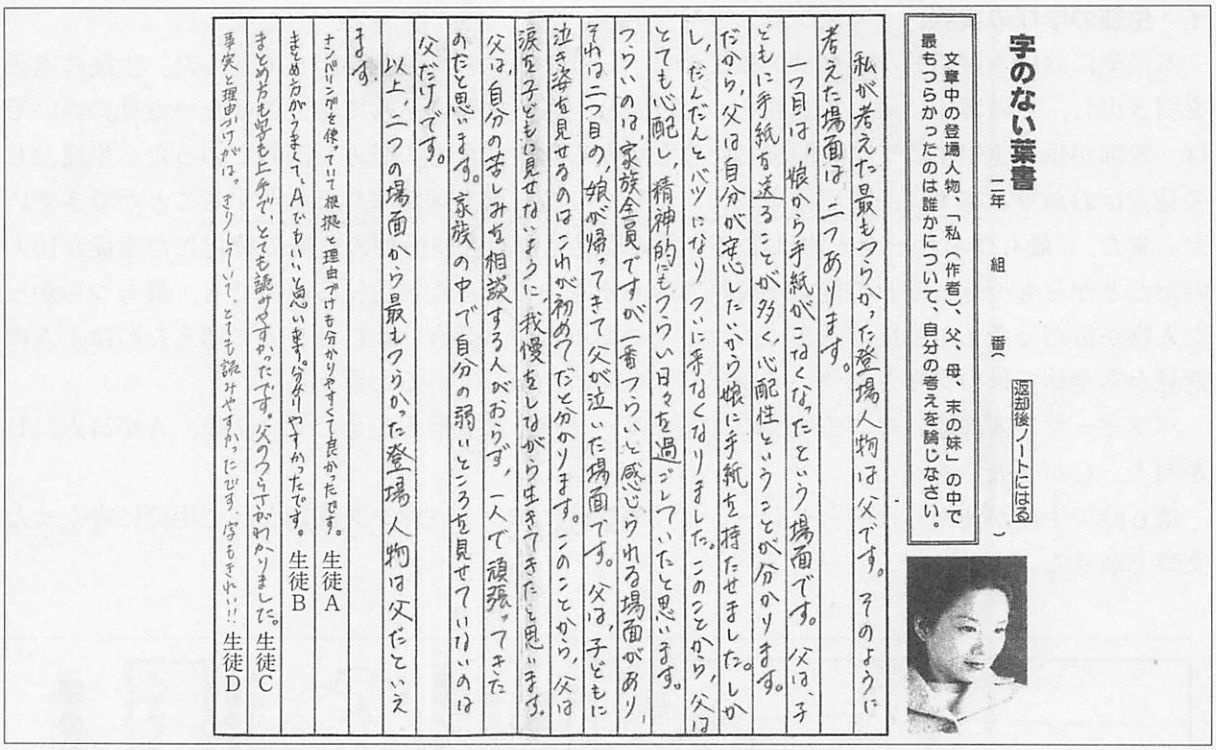



図１　第６時で使用したワークシート

話合いの前後の自分の主張を書く欄を設けて，考えの変容を見取ることができるようにした。また，話合い活動中は，板書をノートに写す作業を行わせないために，板書をデジタルカメラで撮影し，後日配布したものをワークシート下段に貼るようにした。左上には，話合い活動後，次時で文章を書くために，思考を整理しながら構成メモを作成するためのスペースにした。



字のない葉書

二年　組　番（　　）

返却後ノートにはる

文章中の登場人物、「私（作者）、父、母、末の妹」の中で最もつらかったのは誰かについて、自分の考えを論じなさい。

私が考えた最もつらかった登場人物は父です。そのように考えた場面は二つあります。

一つ目は、娘から手紙がこなくなったという場面です。父は、子どもに手紙を送ることが多く、心配性ということが分かります。だから、父は自分が寂しいから娘に手紙を持たせました。しかし、だんだんと心配になり、ついに手紙がなくなりました。このことから、父はとても心配し、精神的にもつらい日々を過ごしていたと思います。

つらいのは、家族全員ですが一番つらいと感じられる場面があります。それは二つ目の、娘が帰ってきて父が泣いた場面です。父は、子どもに泣き顔を見せるのはこれが初めてだと分かります。このことから、父は涙を子どもに見せないように、我慢をしながら生きていたと思います。父は、自分の苦しみを相談する人がおらず、一人で頑張ってきたのだと思います。家族の中で自分の弱いところを見せていないのは父だけです。

以上、二つの場面から最もつらかった登場人物は父だといえます。

ナンバリングを使っていて根拠と理由づけも分かりやすくて良かったです。生徒A

まとめ方がうまくて、Aでもいいと思いました。分かりやすかったです。生徒B

まとめ方も上手で、とても読みやすかったです。父のつらさが分かりました。生徒C

事実と理由づけが。きりとしていて、とても読みやすかったです。字もきれい!! 生徒D

**図２　第７時で使用したワークシート**

**前時で作成した構成メモを基に，第７時で自分の考えを文章にまとめた。書き上げた作文は他の生徒と読み合わせ，感想コメントを書かせた。**

○私が考えた最もつらかった登場人物は父です。（中略）つらいのは家族全員ですが，父が一番つらいと感じられる場面があります。それは娘が帰ってきて父が泣いた場面です。父は，子どもに泣き顔を見せるのはこれが初めてだと分かります。このことから，父は涙を子どもに見せないように，我慢をしながら生きていたと思います。父は，自分の苦しみを相談する人がおらず，一人でがんばってきたのだと思います。家族の中で自分の弱いところを見せていないのは父だけです。

○つらい，しんどい，お腹がすいた。家族のいないところで一人ぼっち。末の娘は「どうして」と思ったと思います。幼さゆえに，「どうして今，私は一人なのか」が理解できず，苦しかったと思います。みんなも同じなんだから，自分も我慢しなくちゃいけないなんて考えられるでしょうか。どうして私は我慢しなければいけないの，どうして誰も来てくれないの，どうして私は一人なの。遠足へ行くように出かけて行ったのも，これからどうなってしまうか分かっていなかったから。その分，つらかったと思います。会えない理由も分かっていない分，あきらめることもできず，一番家族に会いたいと願っていた人物が末の娘だと思います。理由が分かるものでもあきらめられないことはあります。しかし，理由が分からないものは，人間あきらめられないどころか，耐えていることも何倍もつらいです。末の娘はその面では一番つらかったと思います。

授業後に書かせた本時の授業感想には，次のようなことが書かれてあった。

○意見をつないでいって，とても楽しかった。おもしろい意見が出て，考えが深まった。
○つらかったのは父だという考えはゆるぎませんでしたが，他にも納得のいく意見があっておもしろかったです。
○様々な視点で考え，たくさんの意見が出たので自分の意見も変わりました。
○最初は末の妹が最もつらいと思ったけど，「つらい」と「苦しい」は違う気がして，最もつらいのは誰か分からないです。
○他の人の意見を聞いて，末の妹か母かでとても迷いました。意見を聞いたことでこんなにも迷ったのは初めてだったので，良い話合いだったと思います。
○人に気付かされることもあり，非常におもしろかった。正解はないと思うが，また考えてみたい。

### ウ　考察

「本時の授業のねらいが達成されたか」と「パフォーマンス課題」について述べることにする。

まず，「本時の授業のねらいが達成されたか」については，授業中の生徒の様子を観察したことと本時のワークシートと次時で書かせた作文から検証する。授業中の生徒の発言から，ほとんどの生徒は誰が一番つらかったかという主張と，文中のどの部分を根拠に読み取ったのかを，きちんと発言できており，おおむね達成されたと言える。授業での話合いの序盤は「父親」「末の妹」に対する発言が中心であった。それは文中の記述も多いため，根拠を明確にしやすかったものと思われる。しかし，「母親」については記述が少ないために根拠が明確でない発言も見受けられた。そこで，事前に配布していた本文とは別の向田邦子作品を数点紹介する資料を，母親に関する読取の根拠にさせた。「字のない葉書」や資料で提示した作品は随筆であり，作者の視点で家族を描いている。したがって，作品が違っていても一貫した人物像が描かれていたので，「字のない葉書」以外の資料を使って登場人物像を読み取らせることにした。さらに，話合いの中で，生徒自身の母親を重ねているような発言が見られた。これは，文章の読取は言葉を拠りどころにしていることが前提であるが，そこに加えて読み手の経験が含まれているものであると考えられる。話合いの前，最もつらいのは「母親」だと主張したのは１人であったが，話合い後は９人に増える結果となった。活発に意見が交わされることで，新たな考えを知り，自分の考えが変わったことを表している。また，次時に書かせた作文を読むと，主張とそれを裏付ける根拠が書かれてあり，論理的に自分の考えをまとめている生徒がほとんどであった。

次に，本単元の「パフォーマンス課題」について考察する。本単元では「文章中の登場人物，私（作者），父，母，末の妹の中で最もつらかったのは誰かについて，自分の考えを論じなさい」というパフォーマンス課題を設定した。元来，パフォーマンス課題とは，複数の知識・スキルを総合して使いこなすことを求めるような複雑な課題を意味する（西岡加名恵・石井英真・田中耕治編『新しい教育評価入門』有斐閣，2015年）。その多くは，「あなたは文芸評論家です。」といった役割設定をすることで，生徒の活動意欲を高めたり動機付けしたりする。しかし，これまでの実践において，役割設定があるが故に課題の中心である文章の読取や生徒の考えが書かれていなかったり，生徒の豊かな表現力が引き出されない作文になったりすることがあった。そこで本単元では役割設定をせず，課題を複合的に組み合わせていないものにした。しかし，パフォーマンス課題に至るまでの文章の読取を踏まえてパフォーマンス課題に取り組むため，パフォーマンス課題として明示されている課題は単純であっても，生徒の思考はこれまで習得してきた知識や読取が総合される課題になっていると考えている。国語科におけるパフォーマンス課題の在り方については今後も研究が必要であると考えられる。

## ４　成果と課題

対話的な学びによって他者の考えを知り，自分の考えと比較することで自分の考えが深まったり，変わったりした。それによって，自分の考えが整理され，根拠が明確な意見への高められていくことが分かった。対話的な学びを通して，多角的な視点で読み取ることができ，読みが深まっていく。本文の記述を取り上げ列挙するだけではなく，そこから何を解釈したかが根拠として複数書かれてあるのは深い読取ができているからこそだといえる。さらに，自分の経験や人との関わり方が文章から垣間見えるものもあり，文学作品の読取が自分というフィルターを通して自然と浮き彫りになり，捉えられている生徒もいることが分かった。

生徒の感想やアンケートの記述を見ると，対話的な学びの活動が，力を伸ばしたいという学習意欲につながっていることが分かった。生徒は，明確な答えがない問いについて考え，他者と意見交換することで新たな考えを得たり，自分の考えと比べたりすることが楽しいと感じているようである。ただ知識を得たり，記述の中から探したりする作業的な学びではなく，それらを活用

して答えを探るような学びを求めていることが分かった。また，他者の考えを知りたいという意欲は，自分の考えを伝えたいという意欲にもつながり積極的に発言しようとする生徒が増えてきている。それだけでなく，他者を納得させたい，分かりやすく伝えたいという表現力の向上に対しての意欲にもつながっている。本時の授業において積極的に発言していたある生徒の感想には，「自分の発表はあいまいで主述が整わず，長くなってしまいます。分かりにくい上に，自分でも何を言っているのか分からなくなる。」と自己分析したことが書かれてあった。今後は表現力を伸ばしたいという気持ちが表れている。授業中の生徒の発言を観察すると，主張に続いて必ず根拠を挙げる生徒がほとんどである。根拠の重要性について十分理解し，多くの者が納得するような根拠を挙げようと本文の記述に立ち返り，言葉を拠りどころに根拠を作ろうとしている生徒の姿が見られた。

以上のことから，本単元の文学作品の読むことの授業で対話的な学びを用いて文章をさらに読み深める活動は，論理的に思考し表現する学び合いが構成でき，また文学作品を読み深める手立てとして，対話的な学びが有効であったと考えられる。

## 第３章　おわりに

研究（その１）では，「見えない季節」の解説文を書くというパフォーマンス課題を設定し，言葉を丁寧に捉え，言葉がもつ意味やイメージを大切にしながら学習を進めた。詩の言葉を基にして自分で解釈したことをワークシートに記したり，友達と話し合ったりする中で，読みを深めていった。特に，比べ読みによる話合いにより，新たな読みの発見があった生徒が多く，それが詩の魅力へとうまく結びついたようである。また，書くことが苦手な生徒にとっては，友達の意見を聞くことで，自分の意見をどのように文章にまとめればよいのか参考になったようである。解説文を相互評価する中で，多様な読み方があることや，自分の思いをわかりやすく効果的に伝えるためにはどうすればよいかを考えることができた。今後は，生徒の学習意欲を喚起できる，学習課題やパフォーマンス課題を考えていきたい。

研究（その２）では「扇の的」の解説文を書くというパフォーマンス課題を提示し，主張と事実，理由づけ（説明）を明確にしながら筋道を立てて考えたり表現したりするためのワークシート等を工夫した。また小集団で力を合わせ，お互いのよさを認め合いながら課題を解決する協同の場を設定した。その際，付箋紙を使って相手の記述のよいところやアドバイスを挙げさせ相互評価を行わせたことにより，自分の考えに自信をもたせたり，新たな発見をさせたりすることができた。それにより，一人一人の考えを論理的かつ着実に深めるるとともに，古典を深く読み取り，その魅力を味わわせることにつなげることができた。

研究（その３）では，文学作品をより深く読むために対話的な学びである話合い活動を中心活動に据えて取り組んだ。話合い活動に入る前段階として文章を論理的に読み取るための読み方を指導することで，なんとなくの感覚的な読取ではなく，根拠のある読取ができるようになった。それによって，生徒自身も文章を読む力が向上したと実感していることがアンケート回答でわかった。自分の読取に自信をもつことが，次には表現したいという意欲にもつながった。さらに，ただ伝えるのではなく，より分かりやすく表現したいという向上心が感じられたことが成果であるといえる。しかし，読取が深くなると，本文の記述に加えて自分の考え方や経験が色濃く表れ始める。そうすると，本文の記述から乖離した読取になる恐れがあり，根拠が記述から逸脱したものになっていないかを検討させ続けなければならない。そして，パフォーマンス課題の在り方については今後も研究が必要であると考える。また，対話的な学びにおいては，生徒の意見に生徒が質問し，さらに意見を述べ合うような生徒主導の話合い活動を目指し，教師が指導する場面を減らしていきたいと考えている。